

土人形の神像

民間信仰の神様大集合



大黒天



恵比寿

布袋



天神



稲荷狐



虚無僧



富士見西行



鬼の寒念仏

出土遺跡 西新町遺跡

土人形には人形遊びに使われるもの以外に、現世利益を目的とした神像や人物像があります。民間信仰ではおまじないに近いものもあるため、宗教のように決まった儀礼がなく、祀り方はさまざまです。飾ることのできるような大きさのものもありますが、本品のように小さいものはお守りとして布に包んで懐中や財布に入れたようです。現在、神社で販売されているミニチュアの縁起物のようなもので、神社の参拝記念などお土産品として購入されたものと考えられます。



3-4 大集合！土人形の神様達

天神

天神像は菅原道真を祀った天神信仰からくるものです。地方によって祀り方が異なり、桃の節句の際に雛人形と一緒に飾る地方もあれば、正月に飾る地方もあります。学問以外にもいろいろなご利益が期待されていました。

恵比寿・大黒天・布袋

七福神として有名ですが、もともと別個に信仰されていたものが集まって、室町時代ごろに「七福神」というグループが成立したもので、単独でも福の神として信仰されました。

恵比寿は「夷」の名から海から来た神様とも、狩衣姿から日本古来の神様ともいわれています。本来豊漁と航海の安全を祈願する漁業神でしたが、商売の神様として信仰を集めました。大黒天はインドの「大黒天」と神道の大国主が神仏習合したもので、農業神として農家で信仰されていました。福岡県は全国的に見ても恵比寿信仰が盛んだったようですが、この遺跡では大黒天の方が人気があったようです。

布袋は中国の實在の人物で、富貴繁栄や円満をつかさどると考えられていました。

稲荷狐

稲荷神は、本来は「稲生り」、つまりお米の出来を司る穀物・農業の神でしたが、江戸時代に入って商売の神として江戸や京都などの都市部で盛んに信仰されました。狐は稲荷神の使いでしたが、狐自体を稲荷神と混同する誤解が広まったために狐像もおまじないに使われました。

虚無僧

禅宗の半俗僧です。由来がわかりませんが、船酔いのまじないとして船客が持ったものです。

鬼の寒念仏

「大津絵」という、江戸時代の東海道大津宿（滋賀県大津市）の名物の絵画で、護符のお土産物として人気がありました。本品は中でももっとも有名な画題で、二本角の鬼が僧の姿で鉦と撞木を持つ「鬼の寒念仏」です。冬の寒い早朝に念仏を唱える修行をする鬼という偽善者を風刺したもので、子供の夜泣きにご利益があるとされていました。

富士見西行

西行は平安時代末の旅の歌人で、富士山を見上げる姿が日本画の画題とされています。背中に風呂敷包みが貼り付けられているので、「荷物を離さない」ことから、ドロボウ除けのお守りとされていました。また、由来がわかりませんが腹痛に効くともいわれています。

参考文献：福岡県教育委員会 2001『西新町遺跡Ⅲ』福岡県文化財調査報告第157集

福岡県教育委員会 2008『西新町遺跡Ⅷ』福岡県文化財調査報告第218集

福岡県教育委員会 2009『西新町遺跡Ⅸ』福岡県文化財調査報告第221集

写真：当館撮影